

【様式1】

児童数	127	小学校数	9
生徒数	133	中学校数	3
計	260	計	12

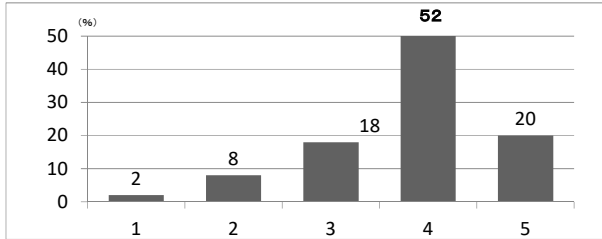
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

阿久根市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

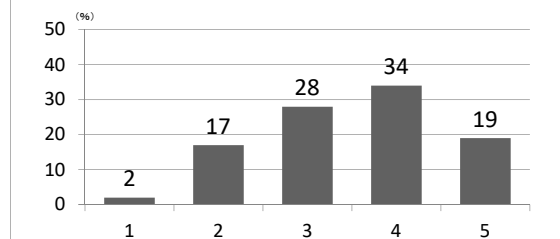


〈課題〉

- ・ 4, 5の段階は72%となっており, 前回と比べて, 8P増加している。しかし, 5の段階は, 14P減少しており, 上位層への個別の指導が必要である。
- ・ 目的を意識して, 中心となる語や文を見つけて要約することに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

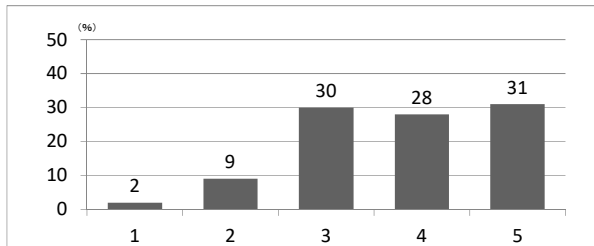


〈課題〉

- ・ 県平均と比べて, 4, 5の段階が7P少なく, 2の段階が6%多い。特に, 1, 2の段階の生徒については, 基礎・基本定着の時間の設定等, 授業内における定着の場を位置付けることが必要である。
- ・ 相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題がある。

【算数】

標準偏差 3.3

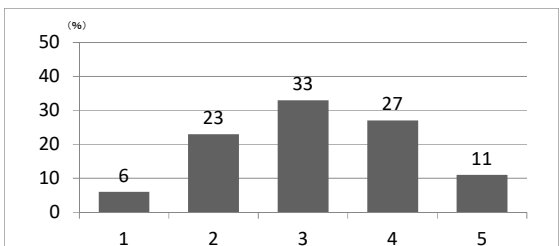


〈課題〉

- ・ 前回と比べると, 5の段階が3P少ない。また, 県平均と比べて, 3の段階が多く, 4の段階が少ない。無答率は高くないが, 解答の正確性に欠ける。
- ・ 面積の求め方を記述することについて, 論理的に説明することに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.9



〈課題〉

- ・ 前回と比べて, 4, 5の段階は13P増加しているが, 2の段階が8P増加している。基礎・基本の定着を図ることができるように, 個に応じた指導が必要である。
- ・ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることに課題があり, 言葉や式, 表, グラフ等の相互の関連を考えるとできていない。

【改善策】

- ① 昨年度まで, 市独自の問題を作成して取り組ませたり, 学力向上サイクルを作成したりして, 市及び各学校で共通理解・共通実践を図るなどの取組を行ってきた。
- ② しかし, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 低位層と中位層の割合が若干増えている。演習問題の活用等, 市全体及び各学校における取組は充実してきたが, 個別の見届けについては, 依然として課題があり, きちんと見届けを徹底した学校とそうでない学校との間で, 成果に差が現れてきている。
- ③ このため, 今後は, 学校訪問における学校個別の課題に対する指導とその見届け, 各教科の最重点課題の指導の徹底について重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 各学校における課題を踏まえた学校独自の演習問題の作成とその実施, 見届けについて指導を行う。(作成済)
 - 継続して成果が出てない学校について, 指導主事等の訪問により, 授業改善に関する指導を行う。また, 指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するため継続的に学校訪問を行い, 改善がなされるまで指導を徹底する。
 - 低位層, 中位層, 上位層をそれぞれ伸ばす, 個に応じた学習活動を充実させる。1人1台端末を積極的に活用し, ドリルパーク等のAIDリルを利用して個別の課題に取り組ませたり, 「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に取り組ませたりするよう指導を徹底する。
 - また, 次の事項を管理職研修会で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 〔小学校〕(国語科) 目的を意識して, 中心となる語や文を見つけて要約することについて, 各学年で系統的に指導を行う。
 (算数科) 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述することについて, 様々な図形で適用問題に取り組ませる。
- 〔中学校〕(国語科) 相手や場に応じて敬語を適切に使うことについて, 適切に指導を行う。
 (数学科) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるように, 言葉や数, 式, 表, グラフ等の相互の関連を考えさせる指導を行う。

児童数	430	小学校数	14
生徒数	431	中学校数	7
計	861	計	21

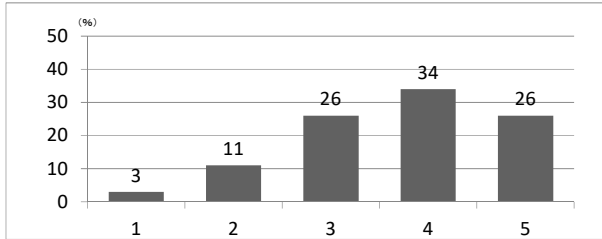
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

出水市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 3.1

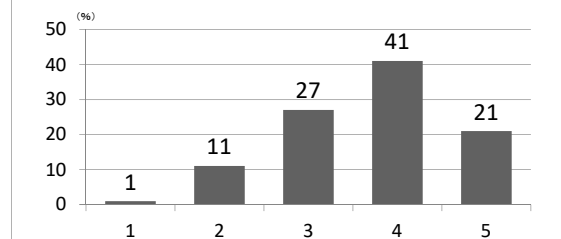


〈課題〉

- ・ 5段階の分布について、4, 5段階は60%である。「知識・技能」と「思考・判断・表現」に関する問題の通過率に大きな差異はない。
- ・ 「話す・聞く」の思考・判断・表現に関する問題はよくできている。
- ・ 目的に応じて必要な情報を見付けたり、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約したりする「読むこと」に課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

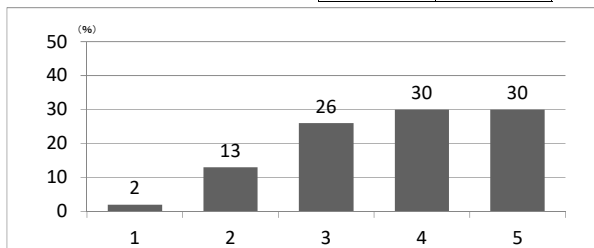


〈課題〉

- ・ 5段階の分布について、4, 5段階は62%である。
- ・ 話し合いの話題や方向、質問の意図などを捉える問題はよくできている。
- ・ 推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係性について考える問題に課題がある。

【算数】

標準偏差 3.6

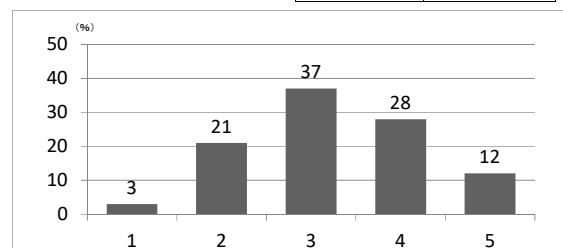


〈課題〉

- ・ 5段階の分布について、4, 5段階は60%である。「思考・判断・表現」に関する問題に課題がある。
- ・ 棒グラフから数量や項目の関係を読み取る問題はよくできている。
- ・ 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方に課題がある。

【数学】

標準偏差 3.5



〈課題〉

- ・ 5段階の分布について、4, 5段階は40%である。
- ・ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題はよくできている。
- ・ 数学的な解釈、数学的な説明に課題があり、無解答率も高い。

【改善策】

- ① 昨年度まで、「今週の一問」の配信や、対話の充実を図るモデル授業づくりなどの取組を行ってきた。
- ② これにより、今回の調査結果では、知識及び技能等の基礎・基本的な事項に関する問題については概ねできているが、全教科ともに記述式の問題に対する正答率の低さや無解答率の高さが課題として挙げられ、また学校間でも正答率等に差が見られる。このことから、昨年度までの取組については、知識及び技能の面では効果があったと考えられるが、自分の考えを言葉で整理したり説明したりすることに関しては、取組が不十分だったと考えられる。
- ③ このため、今後は、自分の考えを述べたり、言葉で説明したりする学習活動の設定と実施や、それらの取組に関する学校間での情報共有など、以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 「主体的・対話的で深い学び」と児童生徒一人一人の確実な学びを実現するため、対話や知識の構造化を意図したモデル授業づくりを行い、各学校に浸透させる。また、ゴールを明確にした授業づくりや、Qubenaの活用を含めた「チャレンジ15分」の取組による定着の見届けを確実にに行わせる。
 - 市主催の研修会や教科部会、教材開発委員会で、全国学力・学習状況調査の問題を取り扱った研修を実施し、授業と各種学力調査問題が一体となった授業づくりができるよう支援する。また、学校訪問等の機会を利用して、確認と指導を徹底する。
 - 1人1台端末用ソフト「ロイノート」等を積極的に活用しつつ、授業の中で、自分の考えを他者に述べる学習の機会を意図的に実施させる。
 - 「かごしま学力向上支援Webシステム」や各種学力調査問題などを中心に「今週の一問」を配信し、週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。
 - 自学自習力の習慣づくりや、予習、復習など授業とつながる家庭学習を旨とするために、保護者と連携した家庭学習の充実を図らせる。
- その他、以下の点を、特に改善を要する内容とし、管理職研修会や学力向上プロジェクト委員会で指導し、取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) 目的に応じて必要な情報を見付けたり、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約したりさせる指導を行う。

(算数科) 図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述させる指導を行う。

〔中学校〕(国語科) 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもたせる指導を行う。

(数学科) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明させる指導を行う。

【様式1】

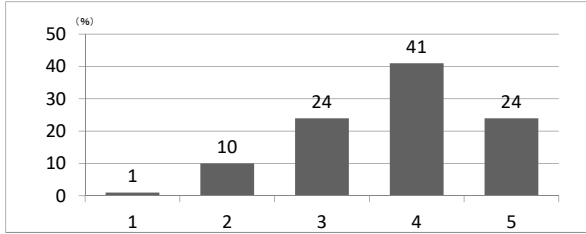
児童数	830	小学校数	27
生徒数	743	中学校数	11
計	1573	計	38

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

薩摩川内市教育委員会

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

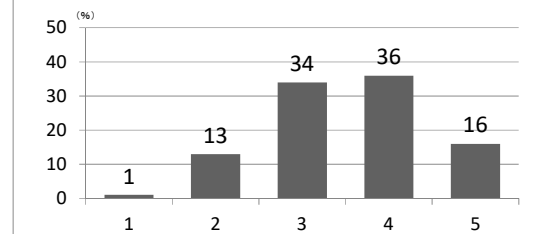


〈課題〉

- ・ 4, 5段階は65%となっており, 前回と比べて+5Pとなった。県平均と比べると, 5段階の児童が少ないことから, 上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・ 説明文の構成を捉え, その内容を正確に理解したり, 文章と図表を関連付けて必要な情報を見付け, 要約したりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

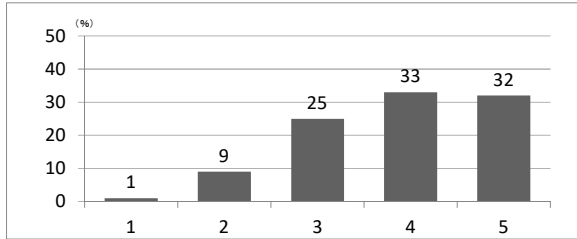


〈課題〉

- ・ 4, 5段階は52%となっており, 前回と比べて-6Pとなった。県平均と比べると, 上位層が少ないことから, 今後, 中間層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・ 読むことについて, 場面の展開や登場人物の心情及び言動の意味を読み取ることに課題がある。

〔算数〕

標準偏差 3.3

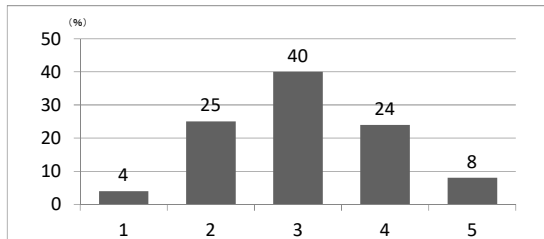


〈課題〉

- ・ 4, 5段階は65%となっており, 前回と比べて+4Pとなった。県平均とほぼ同等である。
- ・ 速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方について理解することに課題がある。

〔数学〕

標準偏差 3.5



〈課題〉

- ・ 4, 5段階は32%となっており, 前回と比べて-12Pとなった。県平均と比べ上位層が少ないことから, 今後, 下位・中間層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・ 文字を用いた計算や図形の角の性質など, 基礎・基本事項の定着に課題がある。

【改善策】

① 昨年度まで, 学級経営の充実を基盤とし, 子供一人一人の自己有用感や自己肯定感の醸成を推進してきた。また, 学びの羅針盤の積極的な活用による授業改善についても継続的に指導してきた。さらに, あと1問にこだわる取組として, 計画的, 継続的に演習問題や100点チャレンジの取組を指導してきた。

② このような取組の結果, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 国語では自分の考えを書くことが改善されたが, 数学では, 依然として, 基礎的な計算力や, 数学的な表現を用いて答えることに課題が見られた。このことから, 昨年度までの取組において, 学び合う集団として良好な関係を築き, 自分の意見もち表現することが成果につながったと考えられるが, 一方で, あと1問にこだわる取組については不十分だったと考えられる。また, 前回と比べ標準偏差が小学校算数, 中学校国語で大きくなっていることから, 取組を徹底した学校と, 徹底できなかった学校との間で, 成果の差が表れてきているものと考えられる。

③ このため, 今後も, 学級経営の充実や, 学びの羅針盤に基づいた授業改善, あと1問にこだわる取組に加えて, 年間を通じて, 各学校の実態に応じ, 学力向上に向けたPDCAサイクルを作成させ, 学期ごとの取組や諸調査の結果を踏まえた検証・見直しに取り組みさせる。さらに, コアスクールプロジェクトの取組を生かした授業改善や校内研修の充実を目指し, 取り組みさせる。具体的には, 以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

○ 各種研修会や校内研修等で, 「学級経営の充実」及び「学びの羅針盤を基にした授業改善」について, 全ての指導主事が指導の徹底を行い, 各学校で実効性のある取組を促す。

○ 学力向上PDCAサイクルによる取組において, 具体的な数値を用いた取組内容や目標を設定することによって, 数値により成果の検証と課題の明確化ができるようにする。

○ 各学校に, 自校の諸調査等の結果分析を踏まえ, 「あと1問にこだわる取組」の具体策を今後の教育活動の中に位置付けさせる。また, そのための授業改善に関する指導を行う。さらに, 改善が図られたかどうかを確認するため, 継続的に学校訪問を行い, 改善がなされるまで指導を徹底し, 確実に確認を行う。

○ 各学校の全職員が, 本結果に基づく自校の課題を自分事として捉え, ボトムアップ型の研修や研鑽を行う体制づくりを行うよう, 指導・助言を行う。

〔小学校〕(国語科) 文章の構成を的確に捉えたり, 必要な情報を見付け要約したりする活動を, 授業に位置付けるよう, 指導を行う。

(算数科) 日常にあるものを用いて, 数学的活動を通して考えさせる授業展開を行うよう, 指導を行う。

〔中学校〕(国語科) 自分の考えをグループ等で交流させ, 他人の考えを聞くことで, 考えを広げたり深めたりできる場面を設定した授業改善がなされるよう, 指導を行う。

(数学科) 基礎・基本の問題に関しては, 繰り返し演習問題に取り組みせるとともに, 中学校では定期テストなどに必ず取り入れさせ, 確実に定着を図らせるよう, 指導を行う。

【様式1】

児童数	176	小学校数	9
生徒数	157	中学校数	1
計	333	計	10

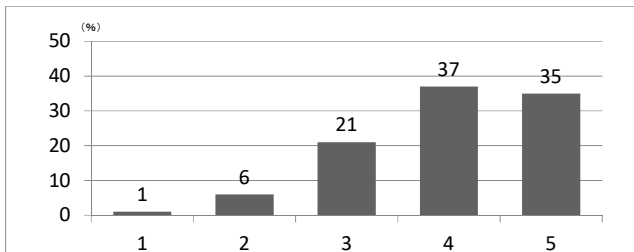
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

さつま町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.7

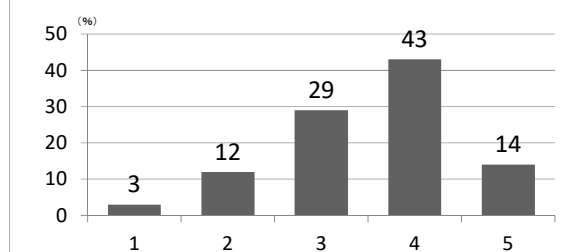


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、4、5段階が72%となっており、県平均よりも高く、概ね良好な結果であるが、1、2段階の児童について、丁寧な個別指導が必要である。
- ・ 漢字を文の中で正しく使うこと、文章全体の構成を捉え、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.7

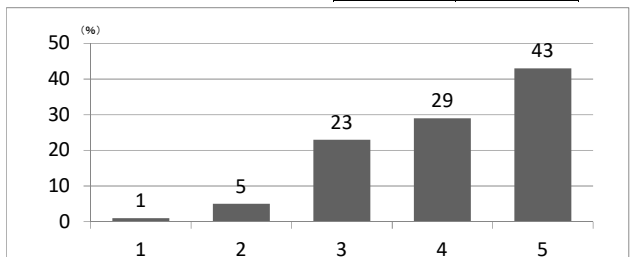


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、4、5段階が57%となっており、全国に比べて少ないが、少しずつ全国や県の分布状況に近づきつつある。今後、下位・中間層を引き上げていく指導が必要である。
- ・ 全国と比較すると無解答率が高いので、個々の実態に応じた指導・支援の必要性が課題である。

【算数】

標準偏差 3.2

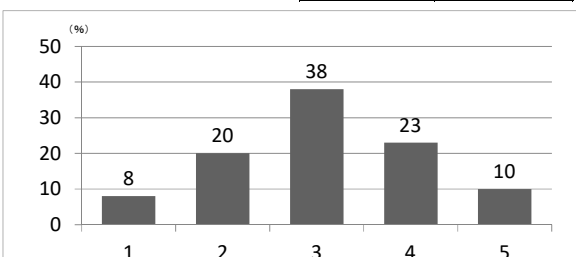


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、4、5段階が72%となっており、県平均よりも高く、概ね良好な結果である。
- ・ 速さを求める式の意味の理解や、グラフからその割合を求めたり特徴を記述したりすることに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.7



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、上位層が全国に比べて少なく、中間層が多い。平均正答率は、全国との差が縮まってきた。
- ・ 基礎・基本となる計算問題の定着や数学的に解釈し、事柄を読み取ったり、表現したりする問題について課題がある。

【改善策】

- ① 昨年度まで、「今週の一問」「さつま町チャレンジ」「さつま町ベーシック」「過去問題」などの取組を行ってきた。
- ② これにより、今回の調査結果では、前回と比べ、小学校において全ての教科で全国平均を大きく上回った。また、中学校においても全国平均に届かなかったものの令和元年度と比較すると、全国平均との差が縮まりつつある。このことから、昨年度までの取組については、効果があったと考えられるが、学校間による差が大きく、これまでの取組が不十分であったり、問題の解説や見届けが不十分であると考えられる。
- ③ このため、今後は、以下の内容について、本町の重点的な学力向上施策として取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 成果が表れなかった学校については、町教委の指導主事が研究授業や公開研究会等において、各種調査等の結果分析を基に、授業改善に関する指導を行う。また、「過去問題」や「今週の一問」等の実施状況を確認し、継続的に学校訪問を行い、改善がなされるまで指導を徹底する。
 - 町内全小・中学校で取り組んでいる「さつまタイム」(帰りの会の時間に、その日の家庭学習の内容や時間について自分で計画を立てる取組)を確実に実施するとともに、その内容の充実を図る。
 - 「今週の一問」「さつま町チャレンジ」「さつま町ベーシック」「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題を、対象学年の全児童生徒に印刷・配布し、学校において繰り返し計画的に活用する。
 - ICTに関する定期的な研修を行い、1人1台端末を積極的に授業に活用し、主体的・対話的で深い学びのある授業の改善を図ったり、ドリル教材を活用し、「ラスト10分の充実」を図ったりする。
 - また、以下の事項を管理職研修会や各種研修会等で指導し、学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 【小学校】(国語科) 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と意見などの関係を押さえ、自分の考えを書いたりすること。
(算数科) 表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすること。除法についての理解を深め、適切に用いること。
- 【中学校】(国語科) 語句や文の使い方、相互段落の関係に注意したり、立場を決めたりして自分の考えを書いたりすること。
(数学科) 文字を用いた四則計算や方程式など基本的な計算について確実に身に付けること。

児童数	88	小学校数	7
生徒数	63	中学校数	5
計	151	計	12

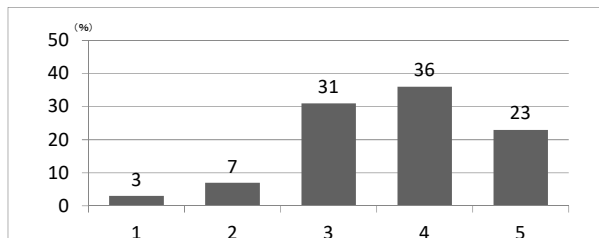
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

長島町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

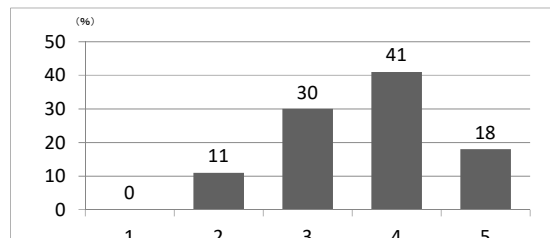


〈課題〉

・前回と比べると、5と2の児童が減っており、中位層に固まっている傾向が見られる。全国平均とは変わらないが、県平均と比べると、2ポイント低くなっており、「C 読むこと」に課題が見られる。
 ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたり、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

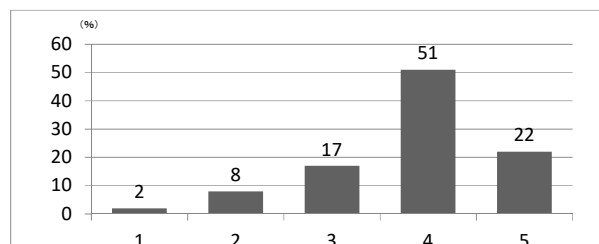


〈課題〉

・前回と比べて、5と2の生徒が減り、4の生徒の割合が高い。県平均と変わらず、全国平均より少し低いが、前回より差が小さくなっている。上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
 ・言語についての知識・理解・技能が全国・県平均より低く、文脈の語句の意味を理解することに課題がある。

〔算数〕

標準偏差 3.3

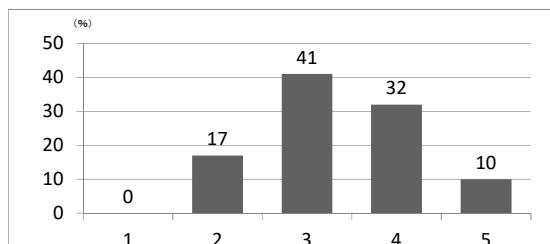


〈課題〉

・前回と比べ、2と3の児童が減っており、4の児童が増えている。しかし、全国平均より1ポイント、県平均より2ポイント低く、特に「思考・判断・表現」が低く、活用する力を更に高める必要がある。
 ・グラフで表された複数のデータを比較し、その特徴や割合を読み取って記述することに課題がある。

〔数学〕

標準偏差 3.0



〈課題〉

・前回と比べ、1と5の生徒も減ったため、中位層が多くなっている。全国、県平均を越えており、学力の底上げが見られる。「数学的な見方や考え方」に課題が見られる。
 ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

【改善策】

(長島町教育委員会におけるPDCAサイクルの取組について)

- ① 昨年度まで、町教委からの「今週の1問(Web問題)」の配信、鹿児島学習定着度調査後に「演習問題」の配信と見届け、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善(実践事例集の作成)等の取組を行ってきた。(D:実施してきたこと)
- ② これにより、今回の調査結果では、前回と比べ、中学校の平均正答率が国語・数学ともに高くなり、学力の底上げが図られた。しかし、依然として、どの教科も記述式が低いという課題として挙げられる。このことから、昨年度までの取組については、演習問題等でよい問題に慣れ、抵抗なく解けるようになった点では効果があったと考えられるが、条件を落とさずに字数を意識して記述する面では取組が不十分だったと考えられる。また、前回と比べ標準偏差が小さくなっていることから、大体の学校が取組を行い、成果が現れてきているものと考えられる(C:実施してきた内容の検証)
- ③ このため、今後は、町内の学校において、学力向上のサイクルを確認・見直しを行い、以下の事項に重点的に取り組んでいく。(P:今後の方針)
 (今後の具体的な取組)
 ○ 各学校、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指し、授業改善に向けた校内研修を充実させるとともに、学校訪問や校内研修の機会に、「北薩の授業づくり3ポイント」を踏まえた授業づくりやWeb問題を活用した授業改善について指導する。
 ○ 継続して成果が出ていない学校について、諸調査等の結果分析を詳しく行い、全職員で課題を把握するようにする。また、学力向上のサイクルを再度見直し、週1回以上のWeb問題に取り組み、その解説まで行うようにする。また、管理職がそれぞれの教科で取り組んでいるか見届けを行うようにする。さらに、学校訪問や研究授業の指導の際に、Web問題等を授業の終末で取り組むなど助言を行う。そして、学力向上の取組が継続されているか学校訪問や電話確認を行うなど指導を徹底する。
 ○ 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため、一人一台端末のAIDリルを積極的に活用しつつ、教育委員会からWeb問題を配信し、週1回以上取り組むように指導を徹底する。
 ○ また、以下の事項を管理職研修会や校内研修の機会に周知・指導し、学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
 [小学校] (国語科) 図表などが文章のどの部分と結び付くのか考え、必要な情報を見付ける活動を授業の中で行うよう、指導を行う。
 (算数科) 統計的に問題解決するために、データを分類整理し、データの特徴や傾向を読み取り、説明する活動を充実させるよう指導を行う。
 [中学校] (国語科) 小学校での敬語の学習を振り返り、敬語に関する体験的な知識を整理し、敬語のもつ働きを理解させる活動を行うよう指導を行う。
 (数学科) 文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実させるよう指導を行う。

【様式1】

児童数	1149	小学校数	34
生徒数	1014	中学校数	12
計	2163	計	46

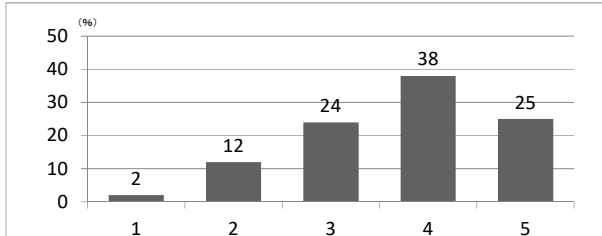
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

霧島市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

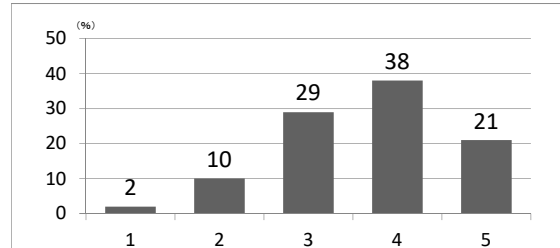


〈課題〉

- ・4, 5段階は63%となっており, 前回と比べて増加した。1, 2段階が減少しており, 県平均と同程度の分布となった。「書くこと」に関する問題の正答率は県・全国を上回っている。
- ・文章に即した読み取りに課題がある。事実と意見の読み分けや例示の役割について理解を深める必要がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

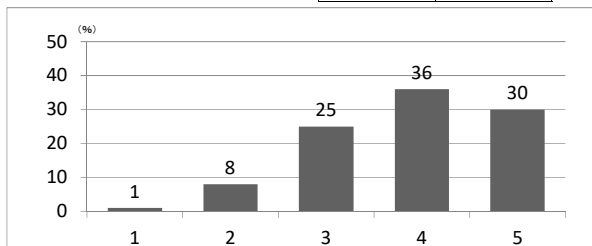


〈課題〉

- ・前回と比べて5段階の割合が大きく減少し, 4段階が増加した。県平均とほぼ同程度の分布を示している。記述式の問題が県・全国と比較してできている。
- ・条件作文について, 全国比では高いものの総体的に低く, 課題と言える。

【算数】

標準偏差 3.3

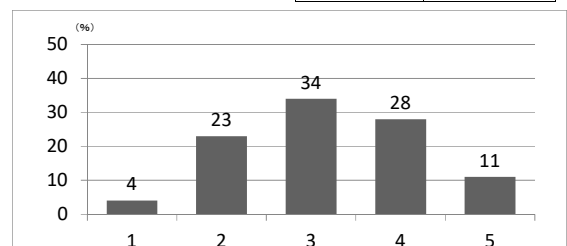


〈課題〉

- ・前回と比べ5段階が大幅に増加し, 4, 5段階を合わせると県平均と同程度である。また, 1～3段階が減少した。分布としては全体的に向上した形である。
- ・除法に関する式や商の意味を問う問題に課題がある。

【数学】

標準偏差 3.6



〈課題〉

- ・前回と比べ, 1段階, 5段階が減少した。分布の割合は県平均と同程度であった。
- ・技能は比較的正答率が高いが, 全国と比較すると低い。
- ・事実や理由を数学的な表現を用いて説明することも課題である。

【改善策】

- ① 本市では、「授業連動型家庭学習」による授業改善、「霧島市『今週の1問』」をはじめとした演習問題への取組、「書く活動」への取組の工夫などを行ってきた。
- ② これにより, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 小・中学校ともに記述式問題に改善傾向が見られる。しかし, 小学校国語では文章に即した読み取り, 中学校国語では条件作文において課題が継続している。また, 算数では知識・技能面, 数学では, 数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ③ このため, 書く活動を日常化する取組, 見届けと指導の充実など, 以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 成果が現れている学校の取組を, ポスターセッションで紹介する機会を管理職研修会の中に設定して協議し, 情報交換を行う。
 - 成果が出ていない学校については, 改善が図られたかどうかを確認するために学校訪問を行い, 改善がなされるまで指導を徹底する。
 - 個に応じた定着の見届けと指導の充実のため, 一人1台端末の積極的な活用を進めるとともに, 「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に, 週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。
 - また, 以下の事項を管理職研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されていることを確認する。
- 〔小学校〕〔国語科〕 事実と意見の読み分けや例示の役割について理解を深める指導を行う。
- 〔算数科〕 意味理解を伴った技能を定着させる指導を行う。
- 〔中学校〕〔国語科〕 文学的文章の授業をはじめとした日頃の授業で, 文章を読み, 文章に書かれている内容に対する自分の考察をまとめる活動を取り入れる。
- 〔数学科〕 鹿児島学習定着度調査の類題を活用する。また, 日頃より条件をもとに考えを書く活動を取り入れた指導を行う。

【様式1】

児童数	159	小学校数	14
生徒数	135	中学校数	2
計	294	計	16

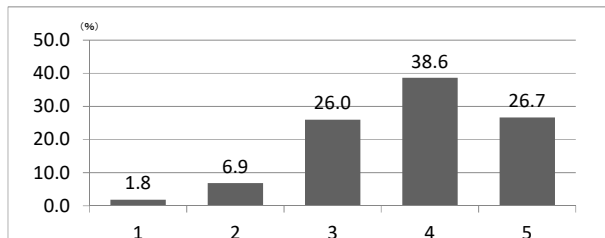
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

伊佐市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

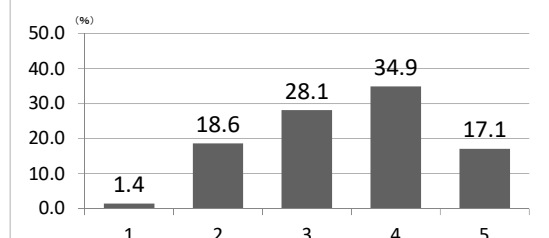


〈課題〉

・本市では、正答数の5問以下の児童の割合が8.7%と県平均と比較しても2.8Pも低い割合であった。多くの児童が基礎的な学習内容が定着している。
・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したり、多くの情報から、必要な情報を選択したりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 3.0

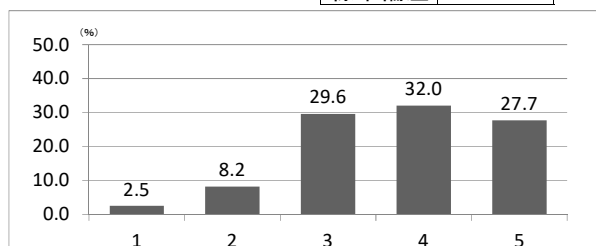


〈課題〉

・県平均と比べて5段階の割合が4.6P低く、また2段階の割合が7.4P高い。基礎的な内容が定着していない生徒が多い。
・「読むこと」に課題があり、特に文章の内容を理解したり、自分の考えを形成したりすることに課題がある。

【算数】

標準偏差 3.5

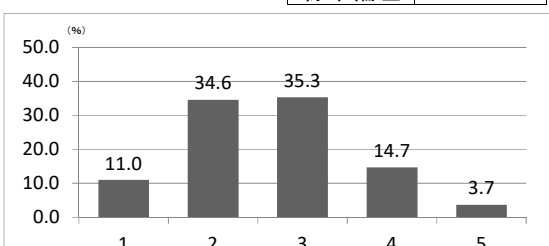


〈課題〉

・県平均と比較すると5段階の割合が4.4P低い。また、3段階の割合が4.8P県平均より高い。中位層が多い傾向が見られる。
・数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場を振り返ったりすることに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.6



〈課題〉

・県平均と比べると2段階の割合が13.2Pも高い。基礎的な内容が定着していない生徒が多い。
・「数学的な見方や考え方」の正答率が低く、特に長文の問題やグラフ等の情報を整理する力に課題がある。

【改善策】

- ① 昨年度まで、Web問題や今週の一問など演習問題への取組を行ってきた。
- ② これまでも、今週の一問など各学校で取り組んできたが、担任や教科担任だけが指導することが多かった。今年度は、各学校が学力向上の時間を設定したり、習熟度別に授業を実施したりするなど組織的に取り組んだ。特に小学校では、担任と専科の教員、特別支援学級の担任、管理職等が複数で支援を行った。複数で指導することで、習熟度別に対応することができ解説まで丁寧に行うことができた。また、基礎・基本の定着だけでなく、上位層の児童への支援を充実させることができた。
さらに、「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、授業改善に向けた職員研修や市の学力向上研修会を実施して、成果があった事例を発表し、市全体で共有することができた。しかし、生徒質問紙の結果から中学校では、問題解決的な授業が実施できていないことが多い。
- ③ このため、今後は、中位層の児童生徒への支援や授業改善を図るために、以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 中位層や上位層の児童生徒を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため、1人1台端末も積極的に活用しつつ、「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題やデジタルドリル等を活用して、複数の教員で個に応じた指導を徹底する。
 - 中学校は、授業改善が進むように、コアスクールプロジェクトやコアティーチャーなどに積極的に参加させ、モデル授業で授業イメージを構築させ、授業力アップを図る。
 - また、以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 〔小学校〕(国語科) 多くの資料から、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるよう指導を行う。
(算数科) 問題解決の過程を他者と数学的に表現し合う場面を設定するなど、計算の工夫に気付かせたり、工夫することのよさを実感したりできるよう指導を行う。
- 〔中学校〕(国語科) 自分の考えを他者に説明したり、他者の考えを知ったりすることで、自分の考えを深めさせる指導を行う。
(数学科) 事柄が成り立つ理由を、構想を立て、文字式や言葉を用いて根拠を明確にして説明できる指導を行う。

【様式1】

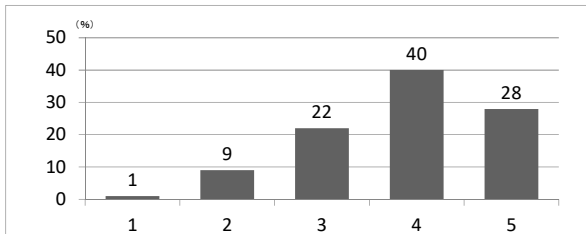
児童数	779	小学校数	17
生徒数	633	中学校数	5
計	1412	計	22

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

始良市教育委員会

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

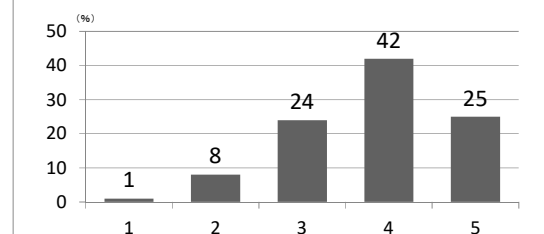


〈課題〉

・4, 5段階は68%となっており, 前回と比べて, 1, 2段階が減少し, 特に4段階が多くなった。しかし, 5段階は前回と比べて減少しており, 上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたり, 中心となる語や文を見付けて要約したりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.7

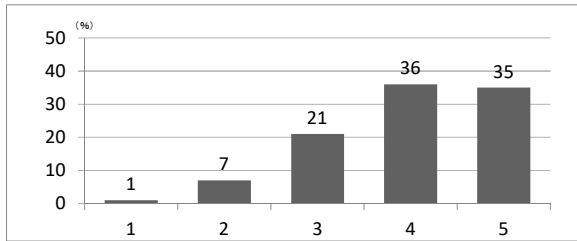


〈課題〉

・4, 5段階が前回とほぼ同じく, 67%いる。しかし, 前回と比べて5段階が15P減少しており, 上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・語句や文の使い方, 段落相互の関係に注意して書くことや文章を読んで, 自分の考えをもつことに課題がある。

【算数】

標準偏差 3.1

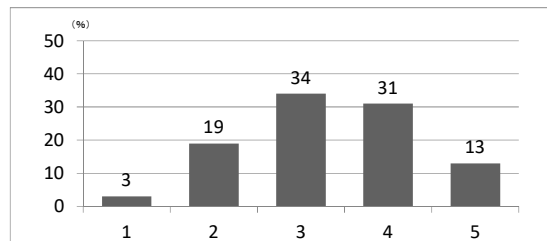


〈課題〉

・4, 5段階は71%となっており, 前回より11P増え, 特に5段階は8P増え, 概ねよい状況であると言える。
・数式の意味理解や, 課題解決の過程を式や言葉を用いて記述することに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.6



〈課題〉

・県平均と各段階同様の割合になっているが, 前回と比べ, 5段階が17P減少しており, 上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・表やグラフから必要な情報を適切に読み取ったり, 数学的に表現された事柄を説明したりすることに課題がある。

【改善策】

- ①昨年度まで, 市全体で取り組んでいる学力向上アクションプラン推進会議等において, 次のことを重点に取組を行ってきた。
- ・学校は, 全ての学力検査結果等を関連付けて同一集団の経年変化を分析し, 各校の学力向上の取組について, 児童生徒の姿と教師の働きかけに明確に区別して成果と課題を分析し, 取組を焦点化・具体化すること。
 - ・学校は, 「演習問題」を, 授業改善のメッセージとして, 授業の単元の導入やまとめとして活用すること。
 - ・学校は, 「書くこと」を徹底するとともに, 「何を書く」のか具体化すること。特に, 授業における理由付けや振り返りを大切にすること。
 - ・学校は, 学力検査対象学年や学力向上係等の一部の教職員のみではなく, 学校全体で組織として取り組む態勢を構築し, 職員の意識改革を図っていくこと。
 - ・市教委は, 授業改善に効果的な校内研修における授業研究の在り方及び学力向上に係る教頭自身の取組について, 実践的な教頭研修を継続的に行うこと。
- ②これにより, 今回の調査結果では, 全学年・全教科において全国平均を超え, 前回と比べて改善した。しかし, 小学校算数を除いては, 5段階の層が減少しており, 下位層を更に引き上げつつも, 上位層をどのように伸ばしていくかが課題として挙げられる。
- このことから, 昨年度までの取組については, 演習問題の活用や組織による学力向上の取組の面では効果が出てきていると考えられるが, 依然として, 授業改善への取組, 特に, 「何を(どれだけ)書くのか」(考え・理由付け・振り返り)の理解や実践が十分に進んでいないことが分かる。このことは, 「書いて説明する」ことに課題がある全国における傾向と同じである。また, 書くことを徹底していない学校は, 児童生徒の姿として成果を挙げられていないことが, 明確になっている。
- 本市では, 昨年度までの取組を, 大きくは成果であると捉え, まず, 各校へは, これまでの教師の働きかけの成果を組織として可視化し, 今後へつなげる取組とすること, そして, 更に更新していくことを求めており, 基本的には, 昨年度までの取組を継続・深化させる取組を行っていく。
- (今後の具体的な取組)
- 継続して成果が出ていない学校については, 取組状況について, 定期的に学校を訪問し, 指導を行う。
 - 各校が可視化した成果や, 成果に基づく取組状況について定期的に確認し, 必要に応じて指導を行う。
 - また, 以下の事項を, 市教委主催の指定校において行う指導法改善研修会(国語・社会・算数・理科), 研究指定校研究公開, 管理職研修会, 学力向上アクションプラン推進会議等で指導を繰り返すとともに, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 【小学校】(国語科) 図表等, 複数の資料を比較して読み取り, 自分の考えを書かせる指導を行う。
(算数科) 筋道を立てて考えた過程について, 書いて説明したり, 振り返ったりさせる指導を行う。
- 【中学校】(国語科) 複数の資料を比較して読み取り, 決められた文字数で自分の考えや理由を書いて発信させる指導を行う。
(数学科) 言葉や数, 式, 表, グラフ等の相互の関連を考えさせ, 書いて説明させる指導を行う。

【様式1】

児童数	48	小学校数	4
生徒数	66	中学校数	2
計	114	計	6

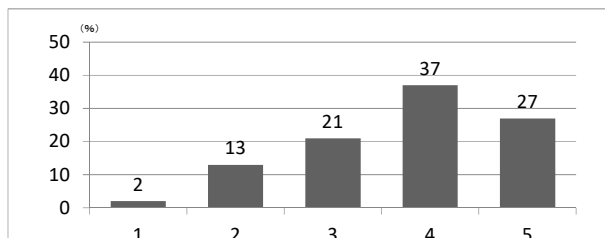
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

湧水町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 3.2

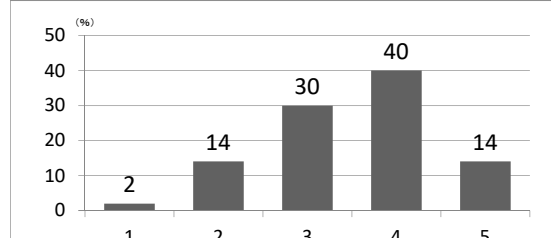


〈課題〉

- ・ 4, 5段階は64%で, 1段階が2%という結果から, 概ね安定した力を発揮したと言えるが, 学校差が大きい。
- ・ 県平均と比べると2ポイント低く, ほぼ全国平均並みである。
- ・ 「話すこと・聞くこと」の, 目的に応じて資料を活用したり, 構成を考えたりする内容が課題である。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.7

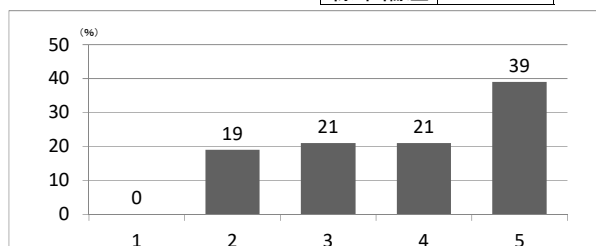


〈課題〉

- ・ 5段階が少なく, 上位層を伸ばすことが課題である。
- ・ 県・全国平均と比べると3ポイント低い。
- ・ 「書くこと」「読むこと」の内容が特に低く, 書いた文章を互いに読み合い, 文章の構成の工夫を考えること, 登場人物の言動の意味を考え, 内容を理解することが課題である。

【算数】

標準偏差 4

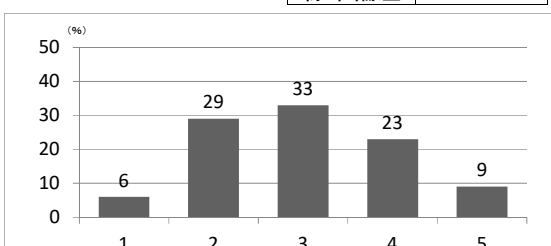


〈課題〉

- ・ 4, 5段階は60%で, 1段階が0%という結果から, 概ね安定した力を発揮したと言えるが, 学校差が大きい。
- ・ 県平均から3ポイント, 全国平均から2ポイント低い。
- ・ 条件に合う時刻を求めること, データを二次元の表に分類整理することが課題である。

【数学】

標準偏差 3.7



〈課題〉

- ・ 1, 2段階は35%で下位層の割合が高く, 5段階は9%で上位層の割合が低い(全体的に低い)。
- ・ 全体的に低いが, 特に数と式の領域の具体的な場面で, 一元一次方程式をつくること, 問題場面における考察の対象を明確に捉えることが課題である。

【改善策】

- ①昨年度から, かがしまweb問題を町内全小・中学校で自校化し, 年間計画に位置付け, 町教委による見届けの取組を行ってきた。
- ②これにより, 町内全小・中学校が年間を通じて良問に触れることにつながっている。今回の調査結果では, 前回と比べ, 記述式の問題形式の平均正答率が全体的に向上し, 特に小規模小学校は県・全国平均正答率を大幅に上回る成果をあげている。しかし依然として, ある程度の集団がある小学校及び中学校の平均正答率が県平均・全国平均に達しないことが課題として挙げられる。このことから, 昨年度までの取組については, 実施→見届け(確認)がなされ, 自分の思いや考えを記述することに慣れるという意味では, 一定の成果があったと考えられるが, 小規模小学校のように個に応じた解答・解説, できるようになるまでの見届けの面では取組が不十分だったと考えられる。
また, 小規模小学校以外の学校は, 年による差が大きく, 本取組の徹底だけでなく, 調査学年までの積み重ねが差となって現れているとも考えられる。
- ③このため, 今後は, かがしまWeb問題の実践と見届けの継続, 各学校の実情に応じた指導など, 以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 継続して成果が出ていない学校はない(小規模小学校以外は年によって変化するため)ので, かがしまWeb問題の実践と町教委による見届けについては継続し, 良問に触れ続けることができるようにする。
 - 小規模小学校以外の学校については, 実施→解答・解説→見届け(確認)の流れの中でも, 「解答・解説」の在り方, 「個に応じた見届け(確認)」の在り方について, 再度検討するよう指導していく。
 - 諸調査等の町全体の結果分析, 授業改善に関する指導については, 管理職研修会や教務主任等研修会, 学力向上推進会議等で指導を行い, 各学校への指導については, 校内研修・学校訪問等の機会を捉えて適宜行っていくようにする。
 - また, 以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じて, 資料を活用して話したり, スピーチの構成を考えたりする指導を行う。
(算数科) 条件について考えることや, データを整理して考える指導を行う。
- 〔中学校〕(国語科) 文章の構成の工夫, 場面の展開や登場人物の心情や行動に注意して内容を考える指導を行う。
(数学科) 「数学的な見方・考え方」を生かして考えさせる指導を行う。